

## 編集後記

第50巻11号をお届けします。

本特集のタイトルは、“臨床に役立つ臨床推論”という日本語としてはある種の危うさをもったものに落ち着きました。初学者のレポートであれば、“鉄橋の橋”と同様の指摘を受けるかもしれません。

臨床推論(clinical reasoning)とは、専門職が実践で行う判断の思考過程であり、観察と傾聴による気づきから形成された仮説に基づき、対象者のニーズに応える論理的・科学的な鑑別と選択を行う認知心理的な過程を視覚的に示したものです。判断の過程においては、疫学統計やリサーチエビデンスが活用されるため、時にガイドラインの詳細を知っていることや疫学統計を理解することが臨床推論の論旨に置き換わってしまうことがあります。その結果、最も本質的な臨床実践での意味ある選択と検証に関する学びを遠ざけてしまう危険が潜んでいます。本特集では、理学療法における臨床推論の限定的な例示はあえて行わず、臨床推論の本質を平易な表現で紐解き(野村英樹論文)、限られた情報と時間でダイナミックな臨床推論が要求される救急(小早川義貴、他論文)ならびに地域医療(齋木実論文)での実際を示していただきました。あわせて、暮らしている人を対象とするケアにおける臨床推論(山内豊明論文)について解説いただきました。これらをもとに、理学療法士が臨床で行っている等身大の臨床推論を整理し、よりよいものへと洗練させていく過程をそれぞれが考える機会としていただくことで、日頃の臨床を振り返り、臨床に役立つ臨床推論を精緻化することにつながるものと信じています。

この編集後記は、出張中のスコットランドで書いています。この地では、きわめて高い帰属・共生意識のもとで、地域住民のニーズに基づく多職種連携による地域社会の構築が精力的に行われています。多職種連携やチームワークという特定の科目ではなく、それを当然とした大学の構造やスタッフ配置ならびに教育課程のもとで、ごく自然にチーム医療や多職種連携が涵養される土壌の形成こそが重要であることを再認識しています。呼吸器疾患で入院した高齢者の理学療法では、ベッド上での呼吸管理や離床について看護師と協働し、X線の撮影で放射線技師は安全な乗移を行い、運動負荷試験における生化学的なデータは臨床検査技師と連携して安全に行う必要があります。これらを学部学生の講義や実習で系統的に取り入れることは、むしろ当然のことと言えるでしょう。同時に、病院や施設は特別な環境であり、日常生活に必要なスキルとして行政サービスへのアクセスや地域の安全を守る警察との連携など、生物心理社会モデルに基づく理念と合致した取り組みも必要です。これらの個別の対応はさほど目新しいものではなく、わが国の技能が不足しているわけではありません。いかに文化と風土に見合う内容を目に見る形で改革していくのが課題であり、単純輸入や模倣のみでは十分な成果は得られません。

わが国の理学療法の質については、他職種のみならず市民団体や行政の関係者からも公式な場で深刻に語られる現状を真摯に受け止めなければなりません。臨床推論やコミュニケーションなどハンズ・オフ・スキルをいかに享受していくのかは、臨床実習教育の根幹的な課題であり、とびらの執筆者のような思いをもって働き続けている理学療法士が一人でも増えることを願っています。縁あって理学療法をめざした学生が、夢と希望をもって働くことができる土壌づくりに汗をかくことは現職者の自己実現でもあります。

(内山 靖)

## 編集顧問

安藤 徳彦  
上田 敏生  
大川 弥生  
高橋 正明  
鶴見 隆正  
奈良 勲  
福屋 靖子

## 編集委員

網本 和  
内山 靖  
金谷 さとみ  
高橋 哲也  
永富 史子  
福井 勉  
山田 英司  
横田 一彦  
吉尾 雅春

## 編集同人

稲貝 恵美  
伊橋 光二  
上田 陽之  
大場 みゆき  
岡西 哲夫  
沖田 実  
小塚 直樹  
日下 隆一  
河野 礼治  
酒井 桂太  
佐藤 秀一  
佐藤 房郎  
関屋 昇  
塚本 利昭  
富樫 誠二  
富田 昌夫  
長澤 弘  
長野 由紀江  
中林 美代子  
中村 春基  
野添 匡史  
濱出 茂治  
備酒 伸彦  
日野 工  
深浦 順一  
福田 恵美子  
二木 淑子  
星 文彦  
丸田 和夫  
諸橋 勇  
八木 麻衣子

## 理学療法ジャーナル

第50巻 第11号

2016年11月15日発行(毎月1回15日発行)

定価：本体1,800円+税

発行 株式会社 医学書院  
代表者 金原 優  
〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23  
電話 本誌編集室直通(03)3817-5704  
(担当：吉田・佐井・川上・前野)  
販売部直通(03)3817-5659  
ファクシミリ (03)3815-7802  
E-mail ptj@igaku-shoin.co.jp  
Web http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ptj/  
振替口座 00170-9-96693 番  
印刷所 三報社印刷(株) ☎(03)3637-0005  
広告申込所 (株)医薬広告社 ☎(03)3814-1971

2016年 年間購読料(送料弊社負担・本体価格)  
冊子版 19,920円  
冊子+電子版/個人 22,920円  
電子版/個人 19,920円  
冊子版/学生割引 15,960円  
冊子+電子版/学生割引 18,960円  
電子版/学生割引 15,960円

- ・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2016. Printed in Japan
- ・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有しています。
- ・本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構委託出版物>  
本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- \*「理学療法ジャーナル」は、株式会社医学書院の登録商標です。